

科目ナンバリング	G-AAA02 52604 LJ31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ環境学 Environmental Studies in Africa	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 大山 修一		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】					
近年、アフリカで調査をしていると、さまざまな変化に目を奪われることが多くなりました。物流や外資系企業の活動などの経済の動き、自然資源の利用や生態系への影響、選挙や法律の改変など、その変化は多岐にわたります。この授業では、アフリカの現代的な諸相を深く理解し、フィールドワークの素養を習得することができることをめざし、講義や実習、文献講読を通じて、アフリカの自然、生態、文化、生業に関するフィールドワークの実際とそのフロンティアをみなさんと考えていきます。					
【到達目標】					
サハラ以南アフリカにおける自然や社会、文化に関する理解をふかめるとともに、基礎的なフィールドワークの技法を身につけることを目標とします。					
【授業計画と内容】					
講義は以下の通りです。 1．はじめに：授業の概要 2．アフリカの自然 その1 3．アフリカの自然 その2 4．アフリカの自然 その3 5．地域研究と研究者の個性 6．生業研究 7．アフリカの土地制度 8．グローバリゼーションと飢餓・貧困問題 9．農村内の呪い 10．気候変動と砂漠化 11．都市と農村の物質循環 12．農耕民と牧畜民の武力衝突 13．テロはなぜ起きるのか。 14．地域研究と社会貢献 15．まとめ					
授業内容は、受講者の人数や興味によって変化することもあります。フィールドワークにおける基本的な技法（データの取得、まとめ方）について、実習を取り入れることも予定しています。					
【履修要件】					
特になし					
----- アフリカ環境学 (2)へ続く -----					

アフリカ環境学 (2)

[成績評価の方法・観点]

評価は、授業への理解（40%）と実習に対する期末レポート(60%)で評価します。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各回のテーマと関連させて、フィールドワークにおける基本技法（データの取得、および分析方法）を学ぶ実習も予定にしています。この実習では、室内/野外で簡単な作業をしたり、あるいは室内でノートパソコンを使い、マイクロソフトのエクセルとフリーのソフトウェアを使います。実験室の化学実験も予定しています。時間外に作業をしていただくこともあります。

（その他（オフィスアワー等））

平日（月曜から金曜日まで）の夕方（16時～18時）をオフィスアワーとしていますが、現在、クロスアポイントメント中で学外勤務や海外出張、他用務などもあるので、空振り为了避免のため、事前にメール連絡してください。

メールアドレスはoyama.shuichi.3r[@]kyoto-u.ac.jp です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA02 82404 LJ31				
授業科目名 <英訳>	生態史論 Historical Ecology	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 安岡 宏和		
配当学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】					
人間とランドスケープの関係（史）について、中部アフリカ熱帯雨林における具体例をとりあげて講義したうえで、生物多様性保全や持続的な地域開発にかかわる諸問題において、人間とランドスケープの関係（史）に関する研究が、どのような観点から重要であるかについて議論する。					
【到達目標】					
以下の2点が到達目標である。 （1）在来の生態学的知識や文化的実践、また広域の政治・経済のしくみが、どのように人間とランドスケープの関係をかたちづけてきたか、ポジティブなもの、ネガティブなものをふくめて、人間活動が地域の生態系にどのような影響をおよぼしてきたかを理解する。 （2）人間とランドスケープの関係（史）という観点が、生物多様性保全や持続的な地域開発にかかわる諸問題にとりくむうえで、どのように有用であるかを理解する。					
【授業計画と内容】					
1. イントロダクション 2-14. 講義、文献講読、ディスカッション					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
平常点（100%）					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
（参考書） 安岡宏和 『アンチ・ドムス：熱帯雨林のマルチスピーシーズ歴史生態学』（京都大学学術出版会，2024年）					
（関連URL）					
https://sites.google.com/view/casinkyoto (中部アフリカ研究 in Kyoto)					
【授業外学修（予習・復習）等】					
授業中に紹介した文献を読むこと					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA02 52502 LJ31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ都市社会論 African Urban Society		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 平野(野元) 美佐	
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
<p>サハラ以南アフリカの諸都市は、外からのさまざまな影響を受けてきた。植民地時代に建設された都市はもちろん、古くから栄えてきた都市も、長距離交易、奴隷貿易、植民地化などの社会変動を受けつつ、その社会を形成、維持してきた。本講義では、ローカルとグローバルがせめぎ合うアフリカ都市社会の動態を、文献を読み込むことで、多角的に理解することを目指す。とくに、「贈与」「交換」「分配」などから考察する。</p>					
[到達目標]					
アフリカのさまざまな都市の過去から現在への発展や、アフリカ都市居住者の社会や生活について学ぶことで、アフリカ社会のもつダイナミズムやグローバル性を理解し、自己の研究対象地域への理解も同時に深めることができる。					
[授業計画と内容]					
<p>毎回、1人～2人の受講者に、文献の内容をレジュメにまとめて発表してもらい、全員で議論する形式で授業を進める。ただし、受講者の数やその関心によって、授業の進め方を変更する可能性がある。</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回～4回：交換と社会 第5回～8回：交換とアフリカ都市 第9回～14回：各地のアフリカ都市社会 第15回：まとめ(フィードバック)</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
発表内容、出席など総合的に評価する。					
[教科書]					
使用しない					
[参考書等]					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- アフリカ都市社会論(2)へ続く -----					

アフリカ都市社会論 (2)

【授業外学修（予習・復習）等】

受講生は、配布された文献等を事前に読んでくる必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーについては、メールで連絡をください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA02 52503 LB31				
授業科目名 <英訳>	相互行為論 Interaction Studies	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 高田 明		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
Using multi-disciplinary research data I have collected, this course discusses the entwined relationships between human activities and the environment with special emphasis on the exchange of various natural and social resources among people in contemporary African societies. Each year, I will select a theme pertaining to this subject and develop empirical and theoretical arguments together with the course participants. In the 2024 course, we will reconsider hunter-gatherer childhood with setting "play" as the key concept, based on both the lecturer 's field research on several groups of San and the literature review of the relevant studies of the wider hunter-gatherer groups.					
[到達目標]					
In this course, we will develop the above areas of interest by analyzing selected domains of child play based on ethnographic materials.					
[授業計画と内容]					
This course deals with the following topics, each of which lasts one or two weeks. The topics may be modified according to the interests of the class. The lectures are given mostly in English, although I will use Japanese if all of the students are Japanese.					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Children in the Wild 2. The Last Hunter-Gatherers of the Kalahari 3 . Minding Hunter-Gatherer Childhood 4. Children and Play 5. Pleasure in nursing 6. Playful Gymnastics 7. The Joy of Early Vocal Communication 8. Imitation in Playful Activities 9. Socialization through Singing-and-Dancing Activities 10. Play and Work 11. Reconsidering Human Childhood 					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
Grading is based primarily on reports and class discussions, with weight given to active engagement in class.					
----- 相互行為論(2)へ続く -----					

相互行為論(2)

[教科書]

Handouts will be provided in class.

[参考書等]

(参考書)

Takada, A. 『The ecology of playful childhood: Caregiver-child interactions among the San of southern Africa.』 (Palgrave Macmillan, 2020)

Reference articles and books will be assigned in class.

[授業外学修(予習・復習)等]

Students will be required to submit two reports, one at the beginning and one during the middle of the course. Details about these reports will be provided in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52504 LJ31			
授業科目名 <英訳>	生業とものづくり Livelihoods and Creativities in Africa		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 金子 守恵	
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期集中
曜時限	集中講義	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】					
<p>現代のアフリカに暮らす人びとを理解するための中心的な対象のひとつは、彼ら・彼女たちが日々を生きていくための生業活動である。講義では、講師がこれまで調査研究をおこなってきたエチオピアでの生業活動（土器製作、農業、土産物製作）を対象に、フィールドワークという手法をもちい、ヒトと「もの」の関係に着目して彼らの生業活動にみいだされる特性を提示する。それをふまえたうえで、受講生とともに、アフリカに暮らす人びとが日々変化する諸環境への対応の仕方、ヒトと「もの」の関係に注目したフィールドワークの可能性、そして調査者が外部者としてフィールドに関わることの可能性について議論する。</p>					
【到達目標】					
<p>ヒトと「もの」の関係に注目して、現代アフリカに暮らす人びとによる生業活動へアプローチする手法を理解したうえで、日々変化する諸環境への彼ら・彼女たちの対応の仕方について受講生とともに議論、考察する力を身につけます。</p>					
【授業計画と内容】					
第1回目	イントロダクション				
第2回目	生業活動としてのものづくり 1 つかう				
第3回目	生業活動としてのものづくり 2 つくる				
第4回目	生業活動としてのものづくり 3 まなぶ				
第5回目	生業活動としてのものづくり 4 売る				
第6回目	ヒト-「もの」関係とフィールドワークの可能性 1（時間、考古）				
第7回目	農耕活動におけるヒト-「もの」関係 1				
第8回目	農耕活動におけるヒト-「もの」関係 2				
第9回目	農耕活動におけるヒト-「もの」関係 3				
第10回目	農耕活動におけるヒト-「もの」関係 4				
第11回目	ヒト-「もの」関係とフィールドワークの可能性 2				
第12回目	あらたな生業活動とヒト-「もの」関係 1				
第13回目	あらたな生業活動とヒト-「もの」関係 2				
第14回目	ヒト-「もの」関係とフィールドワークの可能性 3				
第15回目	フィードバック				
【履修要件】					
特になし					
----- 生業とものづくり (2)へ続く -----					

生業とものづくり (2)

[成績評価の方法・観点]

レポートと授業への積極的な参加を評価します。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前後に予習と復習が必要であり、講義中に適宜指示します。

(その他(オフィスアワー等))

事前にメール等にて連絡してください。個別に対応します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA02 52403 LJ31				
授業科目名 <英訳>	野生動物保全論 Wildlife Conservation	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 山越 言		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
<p>野生生物の保全は、世界各地のさまざまな生態系がもつ生物多様性を維持するための地球規模の問題群を構成する。いっぽう、これらの動物と接して暮らす人々にとっては、固有の歴史と動物観に基づいた、地域特有な問題群の一部となっている。野生動物保全をグローバルとローカルが交差する現代的問題のひとつとして捉え直し、関連する基礎的な概念について、読解・討論を通じて理解する。</p>					
[到達目標]					
<p>授業で取り上げるキーワードについて基礎知識を身につけ、それをを用いて討論し、各自のフィールドワークの現場で生かすことができる新たな問題意識を獲得する。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>第1回目の授業時に日程・内容に関して受講者と相談ののちに決定する。下記は暫定的なモデル案。</p> <p>第1週 授業方針についての説明。</p> <p>第2-7週 自然保護の多様なアプローチを具体例を用いて紹介する。 主要な論点：「誰が」「どのような自然を」「どのような手段で」「何のために」護るのか、「保全と保存」論争、実用的価値と超越的価値、人為的介入の是非、保護区と植民地主義、</p> <p>第8-10週 自然保護に関して行った議論を、地域研究における隣接分野に応用し、理解を深める。 主要な論点：参加型開発論、人道的介入、市場と新自由主義、全体主義と自然保護</p> <p>第11-15週 参加者の関心に応じてキーワードを選び、特定の問題群について議論を行う。 キーワード例：生物多様性、環境持続性、外来種問題、レジリアンス、エコロジー思想、「木は法廷に立てるか」論争、「動物の権利」論争、公民権運動と自然保護思想、動物愛護と共感、アルピニズム・探検の思想、「自然美」概念、風景画の誕生と変遷、ネイチャーライティングと交感、宗教と環境保全</p>					
[履修要件]					
特になし					
[成績評価の方法・観点]					
質問、意見等による講義への主体的参加、討論における積極性を評価する。					
[教科書]					
授業中に指示する					
----- 野生動物保全論 (2)へ続く -----					

野生動物保全論 (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

討論のテーマについての予習・復習を求める。
討論の内容次第で、指示した文献について適宜事前読解を求めることがある。

(その他(オフィスアワー等))

講義時に必要に応じ指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 82605 LJ31			
授業科目名 <英訳>	水・衛生論 Water, Sanitation and Hygiene		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 原田 英典	
配当学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金5	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】					
<p>水は生きるために必須であり、排泄は生活にともなう必然である。水（Water）、トイレと排泄物の処分（Sanitation）、および衛生行動（Hygiene）は合わせて水・衛生あるいはWASHと言われるが、その確保はサハラ以南アフリカにおける重要な課題の一つである。本授業では、廃棄物を含めつつ、水・衛生に関するその現況、健康への影響、物質循環と環境への影響、そして人・環境・社会との相互作用について学び、サハラ以南アフリカにおける水・衛生のあり方を考察する。あわせて、水・衛生にかかる理化学および微生物データ取得のためのフィールド調査について学ぶ。</p>					
【到達目標】					
<p>水・衛生について、健康との関係を理解する。 水・衛生について、物質循環および環境との関係を理解する。 人・環境・社会との相互作用について理解する。 水・衛生の量・質のデータの取得方法とその意味を理解する。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第01回：水・衛生の概要1 第02回：水・衛生の概要2 第03回：水・衛生と健康1 第04回：水・衛生と健康2 第05回：水・衛生と物質循環1 第06回：水・衛生と物質循環2 第07回：水・衛生と社会関係1 第08回：水・衛生と社会関係2 第09回：水・衛生を評価する1 第10回：水・衛生を評価する2 第11回：水・衛生を評価する3 第12回：アジア・アフリカ諸地域の水・衛生1 第13回：アジア・アフリカ諸地域の水・衛生2 第14回：アジア・アフリカ諸地域の水・衛生3 第15回：フィードバック</p> <p>授業内容は受講人数や構成で一部変化する可能性がある。第9回から第11回の授業には一部に水・衛生の量・質の測定実習とそのデータ解析を、第12回から第14回は受講者による発表を含む。</p>					
【履修要件】					
<p>特になし。受講者のバックグラウンドの文理は問わない。</p>					
----- 水・衛生論(2)へ続く -----					

水・衛生論(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への参加・貢献（50％）および発表（50％）に基づく。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

Taro Yamauchi, Seiji Nakao, Hidenori Harada 『The Sanitation Triangle: Socio-Culture, Health and Materials』 (Springer, 2022) ISBN:978-981-16-7710-6 (<https://doi.org/10.1007/978-981-16-7711-3>)
山内太郎, 中尾世治, 原田英典 『総論 サニテーション学の構築』 (北海道大学出版会, 2022) ISBN:978-4-8329-2951-7 (講座 サニテーション学 第1巻)
中尾世治, 牛島健 『社会・文化からみたサニテーション』 (北海道大学出版会, 2023) (講座 サニテーション学 第2巻)
藤原拓, 池見真由 『サニテーションが生み出す物質的・経済的価値』 (北海道大学出版会, 2023) (講座 サニテーション学 第3巻)
原田英典, 山内太郎 『サニテーションと健康』 (北海道大学出版会, 2023) (講座 サニテーション学 第4巻)
清水貴夫, 牛島健, 池見真由, 林耕次 『サニテーションのしくみと共創』 (北海道大学出版会, 2022) (講座 サニテーション学 第5巻)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業後にその内容について自主的な学習で理解を深めること。発表に向けて授業内容を踏まえて準備をすること。学習のための資料は適宜紹介する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA02 52807 LJ31				
授業科目名 <英訳>	熱帯病学 Tropical Diseases	担当者所属・ 職名・氏名	関西医科大学 教授 西山 利正		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
アジア・アフリカ研究科ではアジア・アフリカ地域でのフィールドワークを行う研究者が多い、ところがこれらの地域は我が国に見られない種々の感染症を中心とした疾病が見られる。これらの疾病に対する知識を深め、健康に研究を遂行するための諸知識を習得する。					
[到達目標]					
学生の調査地における風土病に関する知識を身につけ、フィールド調査時における自己の健康管理ができ、熱帯地域における感染症の予防や罹患した時の治療の説明ができるようになる。					
[授業計画と内容]					
第1回：熱帯病学総論 第2回：カ媒介性疾患1（マラリア） 第3回：カ媒介性疾患2（デング熱、黄熱、チクングニア、西ナイル熱など） 第4回：カ媒介性疾患3（バンクロフト系状虫症、マレー系状虫症など） 第5回：ダニ媒介性疾患（恙虫病、紅斑熱、ダニ脳炎、クリミア・コンゴ熱、ライム病など） 第6回：ハエ媒介性疾患（リーシュマニア症、アフリカ睡眠病、回旋糸状虫症、ロア糸状虫症、人食いバエなど） 第7回：経皮感染症（住血吸虫症、鉤虫症、糞線虫症、レプトスピラ症など） 第8回：経口感染性ウイルス性疾患（A・E型肝炎、ノロ感染症、ロタ感染症、急性灰白髄炎など） 第9回：経口感染性細菌性疾患（病原性大腸菌群感染症、細菌性赤痢、腸チフス、サルモネラ食中毒、コレラ、カンピロバクタ感染症など） 第10回：経口感染性寄生虫疾患I（アメーバ赤痢感染症、トキソプラズマ症、ランブル鞭毛虫症、回虫症など） 第11回：経口感染性寄生虫疾患II（鉤虫症、鞭虫症、肝吸虫症、肥大吸虫症、肝蛭症、異形吸虫症、肺吸虫症） 第12回：ほ乳類咬傷による感染症・性感染症（狂犬病、破傷風、Bウイルス感染症、パスツレラ感染症、HIV感染症、梅毒、淋病、クラミジア感染症など） 第13回：マラリア・デング熱簡易診断キットの使い方（実習を含む） 第14回：航空機中で引き起こされやすい疾患と予防、旅行保険の上手な入り方 第15回：トラベルワクチンの選択と接種プログラムの作り方					
[履修要件]					
高等学校で生物を履修していることが望ましいが、必須ではない。					
----- 熱帯病学(2)へ続く -----					

熱帯病学(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートの提出により評価を行う。レポートのテーマはまず受講生の調査地を必ず記載し、その地域で流行している疾患を記載し、その予防対策、感染時の対応を記載する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<http://www.who.int/ith/en/>(WHO International Travel and Health)
<http://wwwnc.cdc.gov/travel/>(CDC Travel Health)
http://www.forth.go.jp/tourist/useful/02_tokou_yobou.html(厚労省検疫所ホームページ)
<http://www.anzen.mofa.go.jp/>(外務省海外安全情報ホームページ)
<http://www.travelmed.gr.jp/>(日本渡航医学会トラヴェルクリニックリストホームページ)

[授業外学修(予習・復習)等]

講義の後、関連項目をWHOのInternational Travel and Health や米国CDCのYellow Book等の該当部分をインターネットで検索し復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー 金曜日12時～13時

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA02 52808 LJ31				
授業科目名 <英訳>	実践的開発協力論 Practical Development Cooperation	担当者所属・ 職名・氏名	アフリカ理解プロジェクト 白鳥 清志		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期集中
曜時限	集中講義	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
<p>この講義はアフリカの農業・農村開発における技術協力の実践的な経験と事例に基づいています。本来開発事業が目指したことと、プロジェクト実施中に起こる様々な出来事を題材にします。開発援助の概要を説明した上で、開発とは何か、受益者、現地行政官、開発員など関係者それぞれのリアリティ、開発ワーカーの考え、行動、役割、求められる能力などについて議論します。</p> <p>地域研究や農村開発に関心や疑問を持つ人が、開発援助プロジェクトの課題と可能性について理解を深め、開発援助に携わる者として、あるいは研究者として求められる知識、技術、態度、考え方について、より深く考えることができることを目指します。</p>					
[到達目標]					
開発援助をクリティカルに考察できるようになる。					
[授業計画と内容]					
次のトピックをカバーします。					
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに (地域研究、文化人類学と開発) 2. 開発の目的、歴史、制度 1 3. 開発の目的、歴史、制度 2 4. 開発の目的、歴史、制度 3 5. 開発の事例 1 6. 開発の事例 2 7. 開発の事例 3 8. 開発の事例 4 9. 開発の事例 5 10. 開発の事例 6 11. 開発の管理、計画、リアリティ、不確実性 1 12. 開発の管理、計画、リアリティ、不確実性 2 13. 開発の管理、計画、リアリティ、不確実性 3 14. 開発ワーカーに求められる能力と態度 1 15. 開発ワーカーに求められる能力と態度 2 					
[履修要件]					
特になし					
----- 実践的開発協力論(2)へ続く -----					

実践的開発協力論(2)

[成績評価の方法・観点]

講義への出席と、議論への参加で判断します。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

Amartya Sen 『自由と経済開発』(日経BPマーケティング) ISBN:978-4532148294 (貧困解消には経済発展と自由による可能性の拡大が必要)

Robert Chambers 『参加型開発と国際協力』(明石書店) ISBN:978-4532148294 (開発に関わる我々が変えることを議論)

Robert Chambers 『開発の思想と行動』(明石書店) ISBN:978-4-7503-2495-1 (「参加型開発と国際協力」の続編で、開発の携わる者の責任と義務について議論)

JIRCAS 『ファームング・システム研究:理論と実践』(JIRCAS) ISBN:1341-3899 (日本におけるファームングシステムの詳細な解説と議論)

服部正也 『援助するものされるもの』(Chuokoron sha) ISBN:4120031047 (開発の携わる者の態度と考え方)

Paul Polack 『世界一大きな問題のシンプルな解き方 私が貧困解決の現場で学んだこと』(英治出版) ISBN:978-4862761064 (開発をビジネスマインドで考える)

和田信明・中田豊一 『途上国の人々との話し方』(みずのわ出版) ISBN:B00X3MR8AM (開発現場におけるコミュニケーションの方法)

Alem, D. et al. 『Farmer Research group: Institutionalizing Participatory Research in Ethiopia』(Practical Action Publishing) ISBN:978-1853399008 (エチオピアでの参加型農業研究の実践事例)

大熊孝 『技術にも自治がある』(農山漁村文化協会) ISBN:978-4540031076 (近代技術とコミュニティー)

佐藤仁 『野蛮から生存の開発論:越境する援助のデザイン』(ミネルヴァ書房) ISBN:978-4623076772 (特に日本の開発と開発技術を歴史的見地から検討)

関根久雄(編著) 『実践と感情:開発人類学の新展開』(春風社) ISBN:978-4861104695 (開発現場に関わる者たちの感情とその実践への影響などについて)

杉本和彦ほか 『アフリカから農を問い直す:自然社会の農学を求めて』(京都大学出版会) ISBN:978-4814004638 (アフリカの「自然社会の農学」という視点から、現代の農業問題を問う)

(関連URL)

[https://sites.google.com/site/ethiorice/\(Ethiopia Functional Enhancement of the National Rice Research and Training Center\)](https://sites.google.com/site/ethiorice/(Ethiopia Functional Enhancement of the National Rice Research and Training Center))

[http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/5065025E0/\(Ethiopia Farmer Research group Project II\)](http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/5065025E0/(Ethiopia Farmer Research group Project II))

[http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/\(Ethiopia Farmer Research group Project\)](http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/(Ethiopia Farmer Research group Project))

[http://www.jica.go.jp/activities/evaluation/tech_ga/after/pdf/2004/hyouka_nougyo2_02.pdf\(Tanzania Kilimanjaro Agricultural Training Centre Project\)](http://www.jica.go.jp/activities/evaluation/tech_ga/after/pdf/2004/hyouka_nougyo2_02.pdf(Tanzania Kilimanjaro Agricultural Training Centre Project))

[https://www.youtube.com/watch?v=f4L9X39fhFc\(FRG Approach - Together we can make it\)](https://www.youtube.com/watch?v=f4L9X39fhFc(FRG Approach - Together we can make it))

[https://www.ngo-jvc.net/jp/projects/advocacy/prosavana-jbm.html\(Prosavanna in Mozambique\)](https://www.ngo-jvc.net/jp/projects/advocacy/prosavana-jbm.html(Prosavanna in Mozambique))

実践的開発協力論(3)へ続く

実践的開発協力論(3)

[授業外学修（予習・復習）等]

上記および下の開発事例から質問のリストを作っておく。

- Project for Functional Enhancement of the National Rice Research and Training Centre
<https://sites.google.com/site/ethiorice/>
- Project for Enhancing Development and Dissemination of Agricultural Innovations through Farmer Research Groups (FRGs)
<http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/>
- Kilimanjaro Agricultural Training Center Project
<http://goo.gl/kpqxcE>
- Prosavana, MoFA
<http://www.jica.go.jp/project/mozambique/001/activities/>
- Prosavana, JVC
<http://www.ngo-jvc.net/jp/projects/advocacy/prosavana-jbm.html>

(その他（オフィスアワー等）)

現場での研究調査などを通じたみなさんの開発や援助に対する知識や経験をもとに、積極的な議論への参加を期待します。

どんなことでも問い合わせてください。

kiyoshi.shiratori@africa-rikai.net

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA02 82155 LB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ政治論 African Politics		担当者所属・ 職名・氏名	龍谷大学法学部 教授 落合 雄彦	
配当学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	木2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】					
<p>アフリカには現在、54の国家がある（西サハラを除く）。そうしたアフリカ諸国の政治をめぐる状況や制度は実に多様だが、その一方で共通性もかなりの程度みられる。本授業では、そうした多様ではあるが一定の共通性を備えたアフリカ諸国をひとつの圏域（スフィア）として捉え、その政治的動態を多面的に考察する。具体的には、アフリカ政治学のスタンダードな英文入門書である Thomson, Alex (2023) An Introduction to African Politics (fifth edition, London and New: Routledge) をテキストとして用い、アフリカ政治を分析あるいは理解するために必要となる基本的な分析概念・枠組みを学んでいく。</p>					
【到達目標】					
アフリカ政治を分析するための基本的な分析概念・枠組みを理解する。					
【授業計画と内容】					
<p>授業は学生による報告とその後のディスカッションを中心に進める。学生の報告については、受講者の人数などにもよるが、1回の授業で2名程度に報告してもらう予定である。 具体的な授業スケジュールとテーマは以下のとおり。</p> <p>01：オリエンテーション（自己紹介、発表順決めなど） 02：歴史 03：イデオロギー 04：エスニシティと宗教 05：社会階級 06：正当性 07：強制 08：主権I 09：主権II 10：権威 11：デモクラシー 12：安全保障 13：地域主義 14：域内国際政治 15：まとめ</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- アフリカ政治論(2)へ続く -----					

アフリカ政治論(2)

[成績評価の方法・観点]

口頭発表ならびにディスカッションの内容を総合的に評価する。

[教科書]

Thomson, Alex 『An Introduction to African Politics』 (Routledge)
原則、教員がテキスト(コピーあるいはPDF)を配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に指示されたテキストを授業前に各自読んでくること。

(その他(オフィスアワー等))

教員は非常勤講師であるため、木曜日午前しか京都大学キャンパスにはいない。授業に関する質問などがある場合には以下のアドレスにメールで問い合わせること。

ochiai@law.ryukoku.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 82809 LJ31			
授業科目名 <英訳>	牧畜文化論 Culture and Society of Nomadic Peoples	担当者所属・ 職名・氏名	徳島大学大学院社会産業理工学研究科 内藤 直樹 准教授		
配当学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期集中
曜時限	集中講義	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】					
この授業では、講師が収集してきた学際的な研究資料を用いて、現代アフリカの牧畜社会を中心的な事例として、グローバル/ローカルな人間と非人間によるランドスケープや場所の構成について議論する。年度ごとにこの主題に関係するテーマを選び、授業の参加者と経験的・理論的な議論を行う。2023年度は、現代アフリカの牧畜民および日本の地域社会を対象にした講師のフィールド調査およびドメスティケーション、景観、人新世、民族誌論についての関連文献に基づき、<場所の生態学>について考察する。					
【到達目標】					
この授業では、講師が選定した牧畜社会におけるランドスケープや人間/非人間のパッチに関する複数の領域について、民族誌的な資料を分析することを通じて、上記の関心についての議論を深める。					
【授業計画と内容】					
この授業では、以下のようなトピックについて、1トピックあたり2～3回の授業を行う予定である。トピックについては、受講生の関心を考慮して適宜調整する。授業は主として英語で行う。ただし、受講生がすべて日本語話者である場合は日本語を用いる。					
1. 牧畜の起源と進化 2-3. ドメスティケーションについて 4. アフリカ牧畜社会の特徴：年齢体系と複婚制 5. アフリカ牧畜社会の特徴：コミュニケーションとしてののねだり 6-7. 東アフリカ牧畜社会における開発と定住化 8-9. 東アフリカ牧畜社会における紛争・難民・平和 10-11. ランドスケープの人類学：景観人類学・歴史生態学 12-13. ランドスケープの人類学：マルチスピーシーズ民族誌・フェミニスト民族誌 14-15. 場所の生態学にむけて					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
成績評価は、主としてレポートと授業中の議論に基づいて行う。議論への積極的な参加を重視する。					
----- 牧畜文化論(2)へ続く -----					

牧畜文化論(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

アナ・チン 『マツタケ：不確定な時代を生きる術』（みすず書房）ISBN:978-4622088318（Tsing, Anna. 2017. *The Mushroom at the End of the World: On the Possibility of Life in Capitalist Ruins*. Princeton: Princeton University Press.）

その他の参考文献は授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

受講者には2つのレポートの提出を求める（1つは初回の授業，もう1つは学期の途中で課題を提示する）。レポートの詳細については授業中に解説する。

(その他（オフィスアワー等）)

質問はnaito.naokiアットマークtokushima-u.ac.jpまでお送りください。随時受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 82811 LE31				
授業科目名 <英訳>	Innovative Africa and SDGs Innovative Africa and SDGs		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	高橋 基樹
				アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	平野(野元) 美佐
			アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授	金子 守恵	
			アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授	原田 英典	
			アジア・アフリカ地域研究研究科	助教	中尾 世治	
			アジア・アフリカ地域研究研究科	助教	阿毛 香絵	
配当学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期集中	
曜時限	集中講義	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	英語	
【授業の概要・目的】						
<p>In order to achieve sustainable development in Africa, we need to address the existing problems and promote technological and social innovation while also learning about the initiatives taken in Africa as well as the formation of local knowledge in communities. Thus, in this course, we offer a holistic view on Africa and the African potential from its ecological, economic, political, technological, cultural, and historical backgrounds from diverse disciplines. We also encourage the mutual exchanges of ideas between the students from African countries and the students studying African affairs. This course is associated with the Innovative Africa program (IAfP), and, as a part of this course, the students will present at the International-Joint Conference of IAfP.</p>						
【到達目標】						
<p>In this course, we will provide a holistic view on Africa from diverse disciplines and develop students' studies.</p>						
【授業計画と内容】						
<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Water&Sanitation and SDGs I 3. Water&Sanitation and SDGs II 4. Students presentations 5. Development Economics and SDGs I 6. Development Economics and SDGs II 7. Circulation of Knowledge, Power, and Religion 8. Islam of West Africa and SDGs 9. Community-based Technology and SDGs I 10. Community-based Technology and SDGs II 11. Forest Ecology and SDGs 12. Mutual Aids and SDGs 13. Innovative Africa and SDGs I 14. Innovative Africa and SDGs II 15. International-Joint Conference 						
【履修要件】						
特になし						
----- Innovative Africa and SDGs(2)へ続く -----						

Innovative Africa and SDGs(2)

【成績評価の方法・観点】

- (1) Class attendance and active participation, 40%
- (2) Two presentations, 40%
- (3) End-of-term paper, 20%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

It will be announced during lectures.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA02 82812 PB31				
授業科目名 <英訳>	フィールド統計学 Statistics for Field Science	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 本郷 峻		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期集中
曜時限	集中講義	授業形態	講義と実習(対面授業科目)	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
<p>フィールド研究に統計学は必要だろうか？答えはあなたがフィールドで得た情報(データ)から何を表現したいかによって、イエスにもノーにもなりうる。しかし、どのような場合に統計学が必要で、どの統計手法が自身のデータに合っているのか、そして統計学的分析が前提とするデータの性質とは何かを知っておくことは重要である。</p> <p>本科目では、フィールド研究において統計学が必要な場合と不必要な場合を知るところから始め、統計学的な推定や検定、データの独立性とランダム・サンプリング、確率分布や回帰分析など、「フィールド研究者が利用する統計学」の基礎を学ぶ。また、実際の調査計画を立ててからデータの分析を行って結論を導くところまで、典型的なフィールド調査の例を用いて解説する。これら講義に加えて、無料の統計ソフトウェアRを用いた演習にも十分な時間をかけ、頭だけでなく手を使って統計学的分析の基礎を習得する。</p>					
[到達目標]					
<p>(1) フィールド研究において最低限必要な統計学的知識の基礎を理解する。</p> <p>(2) 統計学的処理(推定や検定)を前提としたフィールド調査計画をデザインできるようになる。</p> <p>(3) フィールド研究で典型的なデータの統計学的分析について、基本的な流れを理解し、Rを用いた分析の実行についておおまかに把握する。</p>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1. フィールド研究に統計学が必要になるとき：記述統計学と推測統計学 2. 推測統計学を使うための調査計画：データの独立性と無作為なサンプリング 3-4. 演習1：Rを使って調査計画を立ててみよう 5. 推定：データの背後に思いを馳せる 6. 検定：「有意な違い」とはどういうこと？ 7-8. 演習2：ブートストラップと無作為化検定 9. 統計学的分析の流れとデータの図示 10. 確率分布と統計モデリング 11-12. 演習3：データを作って図示してみよう 13. 線形モデル(LM)と一般化線形モデル(GLM) 14. モデルの評価：モデル診断・尤度比検定・AIC 15. 演習4：RでつくるGLM 					
----- フィールド統計学(2)へ続く -----					

フィールド統計学(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点 (100%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

Michael J.Crawley 『統計学：Rを用いた入門書 改訂第2版』(共立出版, 2016) ISBN:9784320111547 (ユーザーとして統計学を学ぶ人のための入門書。Rを使った実行例も豊富。)

粕谷英一 『生物学を学ぶ人のための統計のはなし: きみにも出せる有意差』(文一総合出版, 1998) ISBN:9784829921234 (生態学を専攻する学生に向けた入門書だが、会話形式で書かれており、どの分野の学生にとっても読みやすい)

久保拓弥 『データ解析のための統計モデリング入門』(岩波書店, 2012) ISBN:9784000069731 (初心者がGLMを学ぶならこの本。本講義では6章までの内容を扱う。この本ではRの基礎知識は前提となっている。)

大塚 淳 『統計学を哲学する』(名古屋大学出版会, 2020) ISBN:9784815810030 (一見すると統一的で客観的に見える統計学にも、実際には哲学や主義があり、決して万能でも絶対でもないことがわかる本。読むのにある程度の統計学的知識が必要となるが、読み物としてオススメ。)

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・高校数学の予備知識は必要としません。
- ・講義では全体として、数式を用いた正確な理解よりも、イメージとしての把握を目指します。
- ・したがって、数学的な理解をするためには参考書等で復習する必要がありますし、それを勧めます。
- ・演習の時間には各自のノートパソコンを使って、Rを動かします。以下のウェブサイトなどを参照して最新の "R" と "R Studio Desktop" をインストールしておいてください。

「R入門」

<http://ss.sguc.ac.jp/~rider/R/install.html>

「超初心者向けのRインストール」

<http://sgn.sakura.ne.jp/R/Rinstall.html>

「WindowsでのR/RStudioのインストール」

<https://okumuralab.org/~okumura/stat/R-win.html>

フィールド統計学(3)へ続く

フィールド統計学(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA02 52851 SB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ地域研究演習 I Research Seminar on African Area Studies I	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 アフリカ地域研究専攻全教員		
配当学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
アフリカ地域研究にかかわる基礎的な問題とそれに対するアプローチの方法についての演習をおこなう。					
【到達目標】					
アフリカ地域研究の特質を理解し、みずからの研究課題を設定する能力を身につける。					
【授業計画と内容】					
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。					
【履修要件】					
博士予備論文審査にまだ合格していない者。					
【成績評価の方法・観点】					
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA02 52852 SB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ地域研究演習 I I Research Seminar on African Area Studies II	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 アフリカ地域研究専攻全教員		
配当学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水3	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
アフリカ地域研究にかかわる具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこなう。また、博士予備論文のための研究に関する広い立場からの評価や指導をおこなう。					
【到達目標】					
アフリカ地域研究の特質を理解し、みずからの研究課題を設定する能力を身につける。					
【授業計画と内容】					
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。					
【履修要件】					
博士予備論文審査にまだ合格していない者。					
【成績評価の方法・観点】					
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA02 72853 SB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ地域研究演習ⅠⅠⅠ Research Seminar on African Area Studies III	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 アフリカ地域研究専攻全教員		
配当学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
アフリカ地域研究にかかわる総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこなう。					
【到達目標】					
アフリカ地域研究における研究課題を設定し、その成果を統合的に整理して提示することができる。					
【授業計画と内容】					
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。					
【履修要件】					
博士予備論文の審査に合格した者。					
【成績評価の方法・観点】					
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA02 72854 SB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ地域研究演習IV Research Seminar on African Area Studies IV	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 アフリカ地域研究専攻全教員		
配当学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
アフリカ地域研究に関する先端的な問題と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究に向けての評価や指導をおこなう。					
【到達目標】					
アフリカ地域研究における研究課題を設定し、その成果を統合的に整理して提示することができる。					
【授業計画と内容】					
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。					
【履修要件】					
博士予備論文の審査に合格した者。					
【成績評価の方法・観点】					
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。					
【教科書】					
使用しない					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA02 62801 GB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies I	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限	その他	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
博士予備論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、フィールドワークの視点と方法を練り上げるための演習。					
【到達目標】					
博士予備論文に関する基本的事項を理解する。					
【授業計画と内容】					
指導教員の3名が、学生の博士予備論文の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。					
【履修要件】					
博士予備論文審査にまだ合格していない者。					
【成績評価の方法・観点】					
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA02 72802 GB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies II	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員		
配当学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限	その他	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
博士論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、学際化と研究内容の深化を図るための演習。					
【到達目標】					
博士論文に関する基本的事項を理解する。					
【授業計画と内容】					
指導教員の3名が、学生の博士論文準備の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。					
【履修要件】					
博士予備論文審査に合格した者。					
【成績評価の方法・観点】					
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA02 72803 GB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies III	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員		
配当学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限	その他	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
博士論文の作成に向けて、そこで提起された個別課題に関する学生の研究内容について討議し、それをさらに総合化・深化させるための演習。					
【到達目標】					
博士論文に関する事項の理解を総合化・深化させる。					
【授業計画と内容】					
指導教員の3名が、学生の博士論文作成の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。					
【履修要件】					
博士予備論文審査に合格した者。					
【成績評価の方法・観点】					
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA02 52804 FB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar I		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員	
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限	その他	授業形態	講義と実習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
生態・社会・文化に根ざした地域の固有性を理解するとともに、地域が直面する現代的諸問題を研究課題として発見するためのフィールドワークの手法を習得する。					
【到達目標】					
フィールドワークに関する基本的事項を理解する。					
【授業計画と内容】					
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。					
【履修要件】					
1年次に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf					
【成績評価の方法・観点】					
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
自らのフィールドに関連する資料の収集，分析が求められる。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA02 62805 FB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar II		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員	
配当学年	2-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限	その他	授業形態	講義と実習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう手法を習得する。					
【到達目標】					
自らの研究テーマを発展させるための応用的なフィールドワーク手法を身につける。					
【授業計画と内容】					
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。					
【履修要件】					
2年次以降で博士予備論文提出前に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf					
【成績評価の方法・観点】					
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
自らのフィールドに関連する資料の収集，分析が求められる。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA02 72806 FB31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar III	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員		
配当学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限	その他	授業形態	講義と実習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
【授業の概要・目的】 フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、国際機関やNGO、研究機関等において研究発表や討論をおこなうとともに、必要に応じて研究課題に即した実践活動をおこなう。					
【到達目標】					
フィールドワークに関する事項の理解を総合化・深化させる。					
【授業計画と内容】					
学生は教員とともに研究発表や実践活動の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地でそれを行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。					
【履修要件】					
博士予備論文提出後に臨地教育を受けた者（インターンシップを含む）。ただし、博士予備論文提出後、そのセメスター内に臨地教育を受けた者は臨地演習 の単位とする。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf					
【成績評価の方法・観点】					
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
（参考書） 授業中に紹介する					
【授業外学修（予習・復習）等】					
自らのフィールドに関連する資料の収集，分析，応用が求められる。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					